



株式会社 阿蘇くまもと大地の恵み代表
 熊本YMCA常議員 阿蘇運営委員 藤本 義隆さん

大学卒業後も28歳までリーダー

チャリティーを目的とした熊本YMCAの様々な行事で販売される豚丼や“ぐるぐるウインナー”を目にしたことがある人も多いはず。出店しているのが藤本義隆さん(36歳)です。大津町で養豚と自ら育てた豚の精肉店「大地の恵みポーク」を営み、約1,000頭を肥育している藤本さん。従業員を雇用する経営者として日々ハードなスケジュールをこなしています。

YMCAとの出会いは、藤本さんが高校生の頃まで遡ります。当時、水泳部員だった藤本さんは、高校のプールが使えない秋から冬にかけて練習できる場所を探してYMCAむさしセンターを訪ねました。それからYMCAのフィットネスに入会し、練習場所を見つけたのも束の間、「リーダーをやってみないか」と職員に声をかけられ、水泳教室の指導者になりました。「それまでは、自分が子どもが好きか、なんて考えたこともありませんでした。ところが、活動を始めてみると子どもたちが“どんぐりリーダー”と慕ってくれる。どんどんYMCAの世界に引き込まれていきました」。大学を卒業して、就農。結婚して子どもが生まれた後もリーダー活動を続けました。「リーダーとして指導した後に、息子と一緒にベブースイミングの参加者としてプールに入ったり、なんて時期もありましたよ」。

リーダーのち営農者。農と信念に生きる

経営者としての2つの決断

28歳で父親から養豚を任せられ、家族と従業員を養う養豚業の経営責任者になりました。その後、藤本さんは大きな決断をすることになります。

1つ目は「6次産業化」。6次産業は農業生産者(1次産業)が、食品加工(2次産業)を行い、流通・販売(3次産業)にも取り組む1×2×3=6という産業のあり方で、農業の振興や雇用の活性化につながるとして近年注目されています。「『おいしい豚肉を食べたい』という人たちの声に応えたい、という純粋な気持ちです。従来のやり方では出荷すればそこまで。販売まで行うことで、消費者の声を直に聞くことができます。スーパーに並んだ豚肉よりは割高ですが、それでもうちの肉を買いに来てもらえる。YMCAの催しでウインナーを買っておいしそうに食べる子どもたちの笑顔を見て、この仕事にやりがいを感じるのも同じです。餌や生育管理などにこだわって、丹念に育てた豚ですからね」。

2つ目は2016年に起きた熊本地震の時。父親から引き継いだ豚舎は大きな被害を受け、地震から3年半以上が経過した今もそこに豚の姿はありません。地震の4年前にも一つの豚舎を建設した際の金融機関からの借入れはまだ返済の途中でした。「地震前は6次産業もなんとか軌道に乗せて、肥育頭数も順調に伸びていました。その矢先の地震。様々な決断の責任が自分の肩にのしかかりました」。地震後の売り上げは地震前の半分に落ち込みました。それでも借金を返済しながら、粘り強い経営で少しずつ業績は回復してきています。

YMCAでの自分の役割

「6次産業への挑戦も、地震後の復興も、YMCAとの出会いがなかったらできていなかったかもしれない」と藤本さん。「口下手で、人前で話することが苦手だった私が、新しい分野にチャレンジしたり、困難に負けないという信念を持つことができる人間になれたのはYMCA



リーダー時代の藤本さん

のおかげです」。熊本YMCAの理事を務めながら、同世代や若手職員とも積極的に交流する藤本さんには、自身の経験から伝えたいことがあるといいます。「YMCAはキリスト教精神のもと、社会教育事業を展開する団体。信仰と経営は大切にしてほしいですね。特に経営はまだ20代だった自分が、否が応でも経験から学んだように、スポーツ指導をしている若い職員でも勉強できる。組織全体の動きを自分事として捉えること。これを30代の私が自分の言葉で伝えていくことが、自分に課せられた役割だと思っています」。

明治期、藤本さんの本家は、地元では珍しいキリスト教宣教師の家だったといいます。子どもの頃の藤本さんは、今は亡き祖父に手を引かれて教会に通いました。信仰と事業、そしてボランティア活動。挑戦と苦悩を経て、熊本YMCAと自分の人生を重ねる日々です。

Pickup

YMCA学院生も活躍
 中央センター
 クリスマス会



留学生と
 地域の子供が交流
 東部センター
 クリスマス会

市民クリスマス
 子波トリオ
 チャリティーコンサート



Information 行こう 見よう 深めよう

1月25日・29日・30日

熊本バンド144周年記念行事

講演
×
祈禱会

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟144周年を記念して、講演会と早天祈禱会を開催します。

講演会

回1月29日(水) 18:30~20:00

場 熊本草葉町教会 ※駐車場はありません。お車で越しの場合は、近隣のコインパーキングをご利用ください。

区 同志社の国際主義—原田助と新島襄の『愛人主義』



講演会講師・早天祈禱会奨励

横井和彦さん

(同志社大学経済学部教授、キリスト教文化センター所長、同志社小学校校長、学校法人同志社理事・評議員)



早天祈禱会

回1月30日(木) 6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前
※駐車場有

区 新島襄の志と徳富蘇峰

ボランティアデー

早天祈禱会を前に、熊本バンドゆかりの地である花岡山に集い、清掃活動を行います。※雨天中止

回1月25日(土) 9:30~

場 花岡山山頂

場 熊本バンド144周年記念行事実行委員会事務局(熊本YMCA)

Tel 096-353-6391



2月19日~29日

出会うべき世界が、そこにある。 タイ・ユースワークキャンプ

国際
×
ボランティア

熊本YMCAが長年支援活動を行っている北部タイで、山岳民族の暮らしや文化にふれ、相互理解や異文化交流を深めます。彼らの自立支援のため、タイの人々と協力して生活設備の整備を行います。また、現地の子どもたちとの交流を通して、タイの抱える問題や文化・歴史についても学びます。

これまで多くの人々が参加し、考え方・生き方が変わったという声が多く聞かれるこのワークキャンプ。あなたも、タイの人々の暮らしを共に体験し、彼らの前向きな生き方にふれ、「真の豊かさ」について考えてみませんか。

回2月19日(水)~2月29日(土) 場 タイ チェンライ

区 高校生以上、35歳まで(健康に問題がなく主体的に参加できること)

場 10万円程度(通常26万円のところ、青少年に限り最大6割が助成されます)

区 20名(最少催行人数8名)

区 現地の人々との交流、ボランティアワーク、チェンライ地域の文化・歴史学習

※詳細はお問い合わせください。

場 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



2月26日 Wednesday

いじめのない世界をめざす ピンクシャツデー

いじめ
防止

社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている子どもたちを救うことになる...とYMCAは考えます。ピンクシャツデーはカナダで始まった、いじめ防止の取組みです。いじめの問題について一緒に考え、アクションを起こしませんか?

各センターの取組み

YMCA各センターでは、2月26日のピンクシャツデー前後の期間に、様々な取組みを行います。子どもプログラムでは、子どもたちがピンクの服や小物を身につけて来館。いじめについて考える時間を持ちます。



ピンクシャツデーパレード

ピンクのシャツやグッズを身につけ、いじめのない世界の実現を呼びかけてパレードします。

回3月1日(日) 13:00~14:00

区 サンロード新市街
区 ピンクシャツデーの意味を学んだ後、アーケード街をパレード



新学期に向けてチャレンジ 子ども春休みスポーツスクール& スプリングキャンプ

毎年好評の春休みスポーツスクールとキャンプ。新学期に向けて、新しいことにチャレンジしてみませんか?

スポーツ

特技を伸ばしたい、苦手を克服したい子どもたちのための4日間集中コース

キャンプ

日帰り4日間から4泊5日まで。今年は新たに、3日間のねこ島冒険キャンプが登場!

回2月1日(土) 9:00 Web受付スタート
場 近隣のYMCAにお尋ねください。



R | E | P | O | R | T

[12月8日]



障がいのある子どもたちのために 第4回 インターナショナル・チャリティーラン

YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。12月8日(日)、4回目となる熊本大会を熊本県農業公園カントリーパークで開催。幼児から大人まで約600人が出場しました。
 益金はYMCAの障がい児支援プログラムのために活用されます。



合志中学校吹奏楽部によるオープニングアクト



スペシャルオリンピック
日本・熊本による選手宣誓



YMCA幼児園児が力走



親子で楽しむファミリーラン



仲良くゴール!個人5km



白熱の小学生グループタイムレース



それぞれのペースで楽しむグループラン



当日の写真は1月27日までの期間、閲覧・購入が可能です。
<https://snappark.jp/>
 ※当日参加者にお配りしたアクセスコードとパスワードが必要です。



思い思いのコスチュームで走る参加者たち



ゲームやフードコーナーも



益金は障がい児支援プログラムに

岡 総主事の タラン トン Vol.66



道は開かれる

新しい年を迎えました。2020年が皆様にとって心豊かな年となることをお祈りいたします。
 私事で恐縮ですが、昨年還暦を迎え、改めて人生について考えるようになりました。今まで生きてきた短い中での出来事ではありますが、自分の力ではどうにもならないこともありました。自分の将来をあれこれ心配し、自分の無力

さに嘆き、自信が持てない自分と向き合い、思い悩むこともありましたが、YMCAのネットワークの存在が、私たちはひとりではないということを思い起こさせてくれます。YMCAは様々な背景を持つ人材の宝庫です。時には、望む事柄が叶えられる力になり、また、時には自分の存在を受容し励ましてくれる存在にもなります。そのことにより私たちは一歩踏み出す勇気が与えられ、自分を鼓舞することができるのです。
 私たち熊本YMCAは地域社会に貢献をする大きな願いをもって様々なチャレンジをしています。1995年のむさしセンター開設以来、合志市との関係が様々な形で続いています。現在は同市とYMCAの間で「防災協定」や「包括連携協

定」が結ばれ、社会貢献活動が活発に行われています。近年では「インターナショナル・チャリティーラン」の開催地としても全面的に協力をいただいています。そして、この度2020年4月より、神様から託された新しい活動拠点「合志市総合健康センター ユーパレス弁天」の運営が始まります。私たちの希望と共に、地域社会の希望を新たな器で具現化していきたいと思えます。また、震災により再建中の益城町総合体育館の運営も夏には再開される予定です。熊本YMCAの指定管理施設も5施設となり、ますます公益協働事業としてその働きを推進していかなければと思います。ご支援いただければ幸いです。

t a l a n t o n

YMCAキャンプ100年記念シンポジウム 基調講演「キャンプの可能性」

11月2日(土)に開催されたYMCAキャンプ100年記念シンポジウム
基調講演の一部を抜粋してご紹介します。

2020年にYMCAはキャンプ100年を迎えます。改めてキャンプの存在意義と可能性について考えたいと思います。

まず考えたいのが、「キャンプは何のため？」ということです。キャンプは行うこと自体が目的ではありません。YMCAでは参加者に「全人的な成長」を促すためにキャンプに取り組んできました。さらに「グループワーク」の方法を大切にしながら、参加者だけでなくリーダーの成長も促してきました。障がい児や不登校児、被災児者など、特定のニーズを持った子どもの支援に対応しやすいというのも、キャンプの強みの一つでしょう。

YMCAが組織キャンプ(=目的のために集まって行うキャンプ)に取り組み始めてからこの100年で、環境も変わってきました。子どもたちの団体活動へのニーズが減り、参加する年齢も小学生・幼児へと低年齢化してきました。さらに、青年の家などの施設も減っています。最近では子どもの教育における体験の重要性が見直されてきていますが、一方で問題になっているのが、「子どもの貧困」などによって生じる体験の格差です。「学校外」、つまり放課後や長期休暇こそ、体験の格差が生じやすく、貧困の連鎖にもつながります。

そんな中、改めて組織キャンプの在り方を考えます。ユニバーサル(=青少年全体)とターゲット(障がいや貧困、不登校などの特定のニーズがある子)、

双方へのアプローチが大事です。個人の変化だけに目を向けず、社会に発信することで「社会を変える」意識も必要です。また、組織キャンプが「教育的」すぎることに落とし穴があります。子どもは、自発的に楽しむ遊びの中で成長を得ています。意図を押しつけすぎると、子どもにとって遊びは「遊び」ではなくなります。

現代は、若者の対人関係が小さなグループの中で完結する「島宇宙」に変わってきていると言われます。また、個性が大事と言われつつ、実際には個性的に生きづらい社会であるというジレンマもあります。何かに自由に楽しんだり挑戦したり失敗したりできる「隙間」がなく、子どもや若者は生きづらさを感じているのです。

そんな現代でこそ、組織キャンプの強みが光るはず。多様な人と生活を共にする中で、塾や学校とは全く違う多面的な人間関係を構築できます。自分を認めてくれる人と出会うことができ、「島宇宙」でこじれた際のセーフティネットにもなります。自由に挑戦できる「隙間」の中で個性を發揮し、多くの人と共生することで、多方面から社会へのつながりをつくることのできるのです。今は、この「隙間」も意識的につくらないとなくなってしまう時代です。ともすれば、組織キャンプの取り組みもマニュアル化しがちです。しかし、与えられた環境の中で受け身になるのではなく、青少年たちと共にこうした「遊び」や「隙間」がある場を考え、つくり上げ、時には変えていく必要があると思います。



青山鉄兵さん
文教大学人間科学部准教授
日本YMCA同盟常議員

YMCA年末募金

11月30日(土)と12月1日(日)に県内外16カ所で街頭募金活動を行いました。幼児から大人まで600名を超えるボランティアやスタッフが「子どもたちの未来のために」「世界の困った人たちのために」と協力を呼びかけ、649,497円もの募金が集まりました。



YMCAでは引き続き、1月末まで募金活動に取り組んでいます。

直接お近くのYMCAへお持ちください。郵便振替等でも受け付けています。

郵便口座

01950-9-45588 名義/熊本YMCA本部事務局

お問合せ

熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

わたしと聖句

詩編 139章13〜14編・16編

あなたは、わたしの内臓を造り／母の胎内にわたしを組み立ててくださった。／わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって／驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものか／わたしの魂はよく知っている。

胎児であったわたしをあなたの目を見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている／まだその一日も造られないうちから。

私のすべてが神の書物に 記載されている

創造主なる神は私たちのすべてのことを生まれる前から知っておられます。近年になって、DNAというものが発見され、私たちの体のすべての細胞にそれが記録されていることがわかりました。ヒトゲノムには30億の文字があると言われています。一直



有明バイブル・チャーチ
ロバート・ケイラー

線に書き出すと9000キロに達します。本のページ数にしたら100万ページになります。一般的な本として重ね置いたら約60メートルの高さになります。だがこの膨大な情報を作成し、それを製造されたのでしょうか。聖書には大昔からそれは私たちの創造主であると言っています。

この方は私たちが造られただけではなく、私たちの詳細まで知っている方です。「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられる」(マタイ10:30)。なんと私たちの名前まで知っておられます。「あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。：わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛し」(イザヤ43:1〜4)と言っています。

リビングバイブル訳は上記の詩編の個所の一部分を次のように表現しています。「こんなにも複雑かつ緻密に仕上げてください。たことを感謝します。その腕前は天下一品だと、よくわかっております」。私たちがこのように造られた創造の神に感謝し、目的ある人生を生きていきましょう。

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人/岡成也 編集人/因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。